

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 5 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Maternal alcohol abuse and neonatal infection. 母親のアルコール乱用と新生児の感染	
執筆者	
Gauthier TW, Drews-Botsch C, Falek A, Coles C, Brown LA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2005;29:1035-43.	
キーワード	
妊娠期の飲酒、新生児、感染	
要 旨	
<p>(目的) 慢性のアルコール飲用は成人の免疫系を抑制する。したがって、母親のアルコール摂取は新生児の感染の危険を増加させるかもしれない。本研究においてこの仮説を検証した。</p> <p>(方法) ケースコントロール研究において、母親のアルコール摂取と妊娠 36 週以降に生まれた新生児の感染について調べた。妊娠期間を 3 期に区分し、各期間における母親の飲酒および喫煙状況について尋ねた。</p> <p>(結果) 対象者は妊娠 36 週以降の新生児 872 人であった。51 人(5.8%)に新生児感染のエピソードがあった。新生児感染のエピソードのある児とない児の間で、妊娠週数、性および妊娠週数に対する体重にはほとんど違いはなかった。妊娠中の飲酒および喫煙を報告した母親から生まれた児は、飲酒や喫煙を避けた母親から生まれた児と比べると、新生児感染を起こす可能性があった。人種と喫煙状況で調整したとき、アルコールの種類に関係なく、母親の飲酒によって妊娠週数に対して低体重の児の新生児感染は増加した (2.5 倍)。また、多量飲酒は新生児感染の危険を増加させた (3-4 倍)。母親の低収入、喫煙状況および妊娠週数に対する児の体重で調整すると、2 つの期間での多量飲酒は新生児感染の危険を増加させた(3.7[1.1-12.8])。</p> <p>(結論) 母親の多量飲酒は新生児感染の危険の増加に関係している。</p>	